

教員名	伊藤 亜矢子 (ITO Ayako)
所属	生活科学部人間生活学科発達臨床心理学講座
学位	博士 (教育学)
職名	助教授
URL / E-mail	http://www.develop.ocha.ac.jp/ittoa.html

## ◆研究キーワード

コミュニティ・アプローチ / 学級風土 / スクールカウンセリング / 実践研究 / コンサルテーション

## ◆主要業績

総数 ( 13 ) 件

- ・伊藤 亜矢子 (編著) 2007 学校臨床心理学—学校という場を生かした支援— 北樹出版 (東京).
- ・伊藤 亜矢子 2006 「質」を語る「量」的データ 発達, 105(27), 41-47.
- ・伊藤 亜矢子・宮内 由佳・濱口 まち子・中井 優子 2006 中学校での不登校支援をめざした実践研究の試み お茶の水女子大学臨床相談センター紀要, 8, 37-51.
- ・Smith,D.,Ito,A., Smith,J., Gruenewald,J.,Langford,R. & Yoh,E. 2006 A Cross-Cultural Comparison of School Satisfaction Among Japanese, Taiwanese, and American Youth. presented at American Educational Resaerch Association 2006 Annual Meeting.
- ・伊藤亜矢子 2006 スクールカウンセリングにおける教師支援の可能性 日本心理臨床学会第 25 回発表論文集、 440.

## ◆研究内容

不登校予防システムの構築に関する学校支援実践研究  
 校内連携を推進する情報共有・連携システムの構築  
 小中連携を推進する情報共有・連携システムの構築  
 学級風土質問紙 (Classroom Climate Inventory) の開発とそれを応用した学校支援。①教師個人レベルでは、CCI 結果を媒体とした教師コンサルテーション、②学級レベルでは、CCI 活用シートを利用した学級と個人の双方に焦点をあてたコンサルテーション、③学区・学校レベルでは、CCI を用いた教師教育、等の実践研究を行っている。

## ◆教育内容

伊藤研究室では、子ども・学校・地域・コミュニティをキーワードに、各人のテーマに応じて、実践研究を行っています。

臨床心理学・コミュニティ心理学・教育心理学・学校心理学の知見を元に、学校内外での、子ども支援を促進する方法の開発やシステムづくりをめざした実践研究です。

例えば、小学校・中学校・高等学校で、一教室あるいは、T T 枠などを提供してもらい、相談室を創設し相談システムづくりを実践的に検討するなどを、大学院生と学部学生が協力して行っています。

大学院生の多くは、心理臨床センターに所属し、相談事例について、伊藤のスーパーバイズを受けます。伊藤が母親面接、大学院生が子ども面接を担当する場合も多くなっています。そのほか、大学院生は興味に応じて外部実習に行っています。

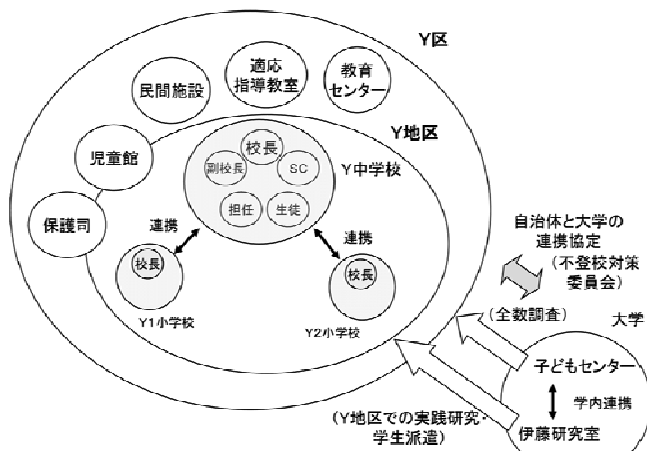


図 不登校支援の実践モデル 伊藤(2007)より

## ◆Research Pursuits

---

A series of action researches for prevention of non-attendance at school in public schools.

1) Development of supporting system in schools to share the information and enhance cooperation with teachers.

2) Development of supporting system in elementary and middle schools to share the information and enhance cooperation between elementary and middle school teachers in order to increase teacher supports for children's transition.

Development and application of Classroom Climate Inventory (CCI) for school support.

1) At individual (teacher) level; consultation with CCI for homeroom teacher.

2) At classroom level; consultation with sheet type CCI results to intervene in a student's and whole class problem.

3) At school and district level; teacher in-service training with CCI.

Development teacher & student support programs for mental health problem by international comparison.

## ◆Educational Pursuits

---

In our laboratory, students do the action researches cooperated with each other focusing on their own topics in schools & communities. Their key words are prevention, mental health, children, youth, school, community.

Research methods are based on community psychology, clinical psychology, school psychology & educational psychology.

Many of graduate students also belong to the clinical psychology center in our university, do some clinical practices (counseling with children, parent, teacher) with supervisions by Dr.Ito.

## ◆共同研究例

---

日米のスクールカウンセラーと教師の協働による学級介入プログラムの構築

## ◆共同研究可能テーマ

---

- ・学級風土アセスメントを用いた学校支援
- ・スクールカウンセリングの評価

## ◆将来の研究計画・研究の展望

---

現在行っている実践研究を継続し、学校内外の子ども支援システムづくりについて、実践的な知見を提供する。特に、スクールカウンセラー実践の効果的な方法や、教師による子ども支援や学級づくりを臨床心理学の知見から支援する研究成果の蓄積が大きな目標である。06年度には学級風土質問紙(CCI)のマークシート化ができ、07年度より実用可能な見込みとなり、コミュニティアプローチによる学校臨床のテキストも出版できた。これら実用化を進めてきたCCIによるコンサルテーション・システムの完成と出版公開が当面の課題である。

## ◆研究の実用化 (実用化済のテーマ)

---

自動解析による学級風土質問紙を用いた学級アセスメントレポートと個人シート

## ◆研究の実用化 (今後実用化したいテーマ)

---

短縮版学級風土質問紙による学級自己診断マニュアル  
短縮版学級風土質問紙によるコンサルテーションシート

## ◆受験生等へのメッセージ

---

自分なりのテーマ関心を持ち、実践の場で創造的な実践研究ができる人材を求めています。

それぞれが自分の意見・センスを生かしながら、お互いに協働することで、学校という場や地域で、その場所の専門家である現職教員の先生方等と協働し、子ども支援を展開することは、やりがいのある実践研究活動です。スクールカウンセラーに重要なのは work with すなわち他業種も含めた協働。それに環境要因や発達の要因も含めた適切な問題理解の力ではないでしょうか。

助け合い切磋琢磨しながら、創造的な臨床心理士・実践的研究者として成長していける研究室をめざしています。